

「卒園児特別招待者より

小羊の思い出」

「天国の賞」

「月一回でも保育園に充電にきていい？」と言っていた行田卒園児 早川楓ちゃん。楓ちゃんが夢をみたと言う、「世界一の保育園に選ばれて賞状を持った市川先生が、キラキラ、キラキラ（両肩から上に手をのびし）輝いていたよ」と。お母さんへ「三回もみたんだよ、園に行つて聞いてみてよ」と言われて、ママ先生に聞くと、「エ!!すごい、実は社会福祉協議会全国大会が名古屋であり、行つて来られて賞をもらつて来たんですよ」と、母親のビックリ「エ!!エ!!ほんと」それを伝えられて、私も「エ!!」ですよね。「知るはずなのに」

楓ちゃんの思い、絵本のおじちゃんの思い、みんなの思いが伝わつて私の中では二年前から仮称「おじちゃんち」を作るべく行政との交渉、業者との折衝が続いて「小羊っ子の心の基地」建設は不動のものとなりながら、行政との問題にはばまれて、二転、三転として来た。

この建物は「みんなの崇高な純粋な気持ち」が集つて建てるもの（祈り、献身）その建物は「みんなの心の基地、原点に立ち帰り新しい出発に気付く」ものでありたい。そこへ入れば平安、休息、気付き、希望、復活、祝福へと旅立つものであるべきだと。

キラキラ輝く賞とは主の栄光につながり、主を証しする者と思う。楓ちゃんの夢が当たったとして、主よりの賞とすると①「クラウディアの祈り」の出版にかかわり二人の出会い作り【愛】②おじちゃんの絵本によって小羊の理念が【光】によって用いられ、今年の推薦本の③信仰偉人伝60冊出版に献金【行い】に対しての賞だと思われます。

すべてが主の計画。小羊はふつつかな僕としてつかえる園で賞は天国のものです。創立者 市川益子（H25・11月園だより抜粋）

「おじちゃんありがとう」

泣いていたつておじちゃんはうれしくなくはらず。私たちが笑顔でいることがおじちゃんへの恩返しだと思います。子どもだけでなく、私達も多くの事を学ばせていただきました。些細な事でも一緒に悩み、真剣に答えを探し出して下さった先生方、本当に有難うございました。

これから先、子ども達が悩み、立ち止った時、小羊がいつでも帰れる場所であつて欲しい。そして、嬉しい楽しい報告がいつまでもできるような家族共々成長し続けたいと思つています。

卒園児保護者
（小学一年生）